

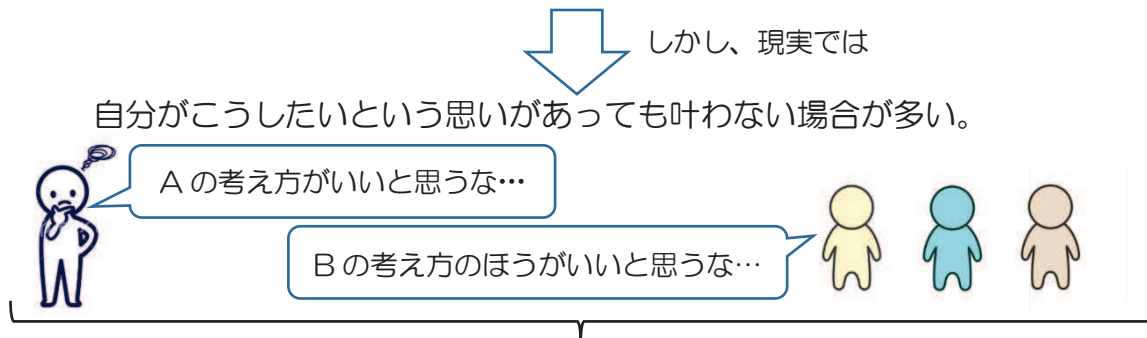
独創教育について

1 千葉命吉による独創教育論

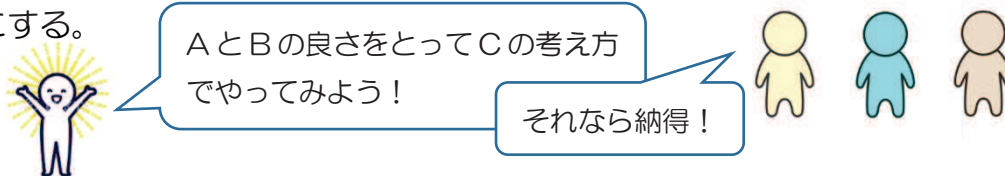
○独創とは

人は誰でも「衝動」（意思、意志、願望など）をもっており、それらを満たすことで生きがいのある生活が送れるようになる。全ての衝動を満足させることが本当の生き方であるという考え方である。

（千葉命吉による「一切衝動皆満足論」）



相談を通して、だれもが満足をする点を見つけ出すことによって新たな解決策やアイデアが見つかり、みんなの衝動が満たされ、みんなが満足できるようにする。



主体性をもって葛藤するその衝動をすべて満足させることが「**独創**」となる

＝新たな価値を創り出す

つまり「**独創力**」は主体性をもって新たな価値を創り出す力と言える。

○独創教育とは

千葉氏は独創教育を次のように捉えていた。

主体的に人間同士が結び合いながら、自分の考えや工夫によって新しいもの（価値）を創り出し、新しい文化を創造し、社会を発展させる子どもを育てる教育

独創教育の学習のプロセスを通して、思考力・創造力を培うという教育次元で捉えるだけではなく、産業活動の中で新しいものを創り出すという生産的独創（社会に開かれた教育課程の面）と生き方を追求する人間論（資質・能力の面）という、現代の教育にも通じる視点で捉えていたと言える。

2 檜高憲三による「独創教育」

○時代背景

今日では「日本三大銘醸地 西条」と言われるように酒都として発展した西条だが、かつての西条の街の人々は郷土を愛する気持ちに乏しく、統一性の欠如した街であった。現状に満足し、何に対しても対立的・部分的。一面的にしか物事を捉えようとしめない風潮があった。そこで白羽の矢が立ったのが千葉氏の教えを受けた檜高憲三であった。西条小学校の校長に就任し、「独創教育」を掲げ、子ども達を育て、街を一つにまとめていったのだった。

○教育理念と校訓

檜高校長先生は千葉氏の独創教育論を、教育の場で具現化していった。当時の教育方針は「人間が本来もっている創造性を啓発助長することによって個性の完成を目指す」とし、校訓を「何事も自ら進んで 正しく 強く 優しく 永くやります」とした。鐘なし日（チャイムをならさず1日中、自分が取り組みたい学習を行う日）や相談学習（話し合い活動を通して課題を解決する）など、独創的な活動を行い、学習者起点の学びや対話的な学びを目指していた。



一隅を照らす

世の中に出て、それぞれの与えられた立場で自分を生かし、
輝きを放つ一人になれ。世の闇を照らし、光をあてる人になれ。
教師はどの子にも光をあてて、一人ひとりを輝かせよ！

また、「一隅を照らす」は檜高校長先生が大切にされていた言葉であった。教育理念や校訓を基に、どの子も世の中の「一隅を照らす」人間として教育し、**自分の取り組みたい学びを仲間と共に追求する**教育活動が実践された。

檜高校長先生は独創教育の意味について次のように述べている。

「子どもの生活を真によく洞察してみれば、彼らの空想といい、思索といい、想像といい、行動といい、大人には想像もつかぬ独創人である。それを教師があまり教え過ぎて、他人の思想ややったことをもって頭脳が占領されているから、自分独自の能力が厭迫されてせっかくの芽が萎縮してしまうのである。これまでのように児童の自発性を無視した教師中心の教育ではなく、どこまでも児童自身が人に頼らず自ら考え、自ら思索していけるというように教育していかなければならない。」



3 受け継がれる「独創教育」

○独創教育

西条小学校では、独創教育の理念を現代の教育課題に照らし、「独創教育」を次のように捉えなおした。

自分で課題を見付け、自ら進んで挑戦し、工夫し、追求し、徹底し、他者と協働して新たな価値を創造する。その営みの中で一人一人を輝かせ、生きる力をつける。

○独創力を発揮し、未来を切り拓く児童の育成に向けて

独創力は、学校行事や日々の生活、授業などで養われる。「独創」とありながらも、新たな価値を創り出すには、個性をもった他者、自分にはない考えをもった他者の存在が必要だ。そこで、今年度は「共創」をテーマに研究主題を設定した。「共創」とは立場の異なる他者が団結して新たな価値観を創り出すということだ。授業における共創なので、「共創思考」と称し、次のように定義した。

共創思考 = 他者と協働し、多面的・多角的に本質に迫ろうとする思考

課題解決に向けて、自分とは立場が異なる他者と協働することにより、物事の新しい面が見えてきたり、新しい角度から物事について考えたりすることができる。正解、最適解、納得解、自分にとって価値のある解を導き出すなかで、学びの本質に迫ることができるのではないかと考えた。特に、西条小学校が独自に設定した「学びの深化」の過程（身に付けた知識や概念を総合的、統合的に捉えたり、それらを活用したりして、より深い理解によって課題を解決させていく過程）における共創思考は、学習対象をより深く学ばせ、本質に迫らせる手立てとなるはずだ。



共創思考のイメージ

☆独創教育の目標…自分で課題を見付け、自ら進んで挑戦し、工夫し、追求し、徹底し、他者と協働して新たな価値を創造する児童の育成

☆研究主題…「独創力を発揮し未来を切り拓く児童」の育成

共創思考を取り入れ、その探究過程や創り出された解に価値を生み出すなかで、学びの本質に迫るような授業創りを目指していきたい。

「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



個別最適な学び
協働的な学び

一体的に充実



主体的・対話的で
深い学び

授業外の学習改善

授業改善

＼子供の資質・能力の育成／

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

＼子供が自己調整しながら学習を進めていく／

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
- ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う

→ 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、
異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
- ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う

→ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる



協働的な学び

- ✓ 子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
- ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する

→ 異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す



各学校段階において目指す学びの姿

幼児教育

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等による、質の高い教育が提供されている
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

義務教育

- 基礎的・基本的な知識・技能や学習の基盤となる資質・能力等の確実な育成が行われるとともに、多様な一人一人の興味・関心等に応じた学びが提供されている
- 児童生徒同士の学び合いや探究的な学びなどを通じ、地域の構成員や主権者としての意識が育まれている
- 全ての児童生徒が安全・安心に学ぶことができる

高等学校教育

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれている
- 多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学びが行われている
- 探究的な学びやSTEAM教育など教科等横断的な学びが提供されている

特別支援教育

- 全ての教育段階において、インクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われ、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境整備
- 障害のある子供とない子供が可能な限りともに教育を受けられる条件整備
- 障害のある子供の自立と社会参加を見据え、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備

学校における働き方改革の状況について

東広島市教育委員会

1 時間外勤務の状況について

月平均80時間以上の時間外勤務をした教職員の割合

	小学校教諭	中学校教諭
平成30年度前期	20.4%	36.9%
令和3年度前期	1.8%	7.6%

2 働き方改革に係る取組について（令和元年度～令和3年度）

学 校	市 教 委
○デジタル化による事務の効率化 【例】ペーパーレス会議 ○風通しのよい職場づくり ○日課表の見直し ○学校行事の精選 ○会議の精選及び短縮 ○教職員の意識改革（そもそも思考） ○教材研究の効率化 【例】教科担任制（小学校） 【例】教材の共有化 ○スケジュール管理 ○目標退校時刻の設定 ○定時退校日の徹底 ○電話対応時間の制限 ○職員との面談 ○学校運営協議会の設置 ⇒学校支援の充実	○デジタル化による事務の効率化 【例】市民ポータルサイト 【例】学校体育施設開放事務 【例】校務支援システム ○学校から市教委への業務の移行 【例】給食費公会計化 ○主催行事の精選 ○教材の共有化 【例】GIGAコン ○スクールサポートスタッフの派遣 ○会計年度任用職員等の配置 ○メールにおける事務の軽減 ○一斉閉庁期間の設定 ○広報活動 ○校長との面談 ○PTAとの連携

3 働き方改革における本質的な課題について

(1) 物理的要因

勤務時間のほとんどをアウトプット（授業等）に費やしている。インプット（授業準備）は、児童生徒の下校後に行わざるを得ない状況にある。

(2) 心理的要因

教員にとって児童生徒の豊かな反応はやりがいであり、それを得るための努力を惜しまない状況がある。

学校教育における今日的課題

東広島市教育委員会

1 個別最適な学びの実現

一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じた学びを行うことで、発達障害を持つ子どもや日本語指導が必要な子ども、特異な才能を持つ子ども等、多様な子ども達が誰一人取り残されることが無いようにする「個別最適な学び」には、高い指導技術が求められる。

また、「個別最適な学び」には、個々の学習履歴や情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信といった活動にICTを効果的に使うことで、学びの質が高まり、深い学びにつながっていくことが期待されている。

これらのことを受け、「個別最適な学び」の実現に向けた教職員の指導力を向上させる研修体系の確立が必要である。

2 GIGAスクールの推進

1人1台タブレットを使用することで、授業において、次のような新しい学習が可能となっている。

- ・ローマ字（かな）入力で文章を作る。
- ・表・グラフを作る。
- ・写真や動画を撮る。
- ・プログラミングの演習をする。
- ・インターネットに接続する。
- ・オンラインで遠隔授業（家庭⇔学校⇔他の学校）を行う。
- ・タブレットと大型提示装置とを接続した授業を行う。
- ・情報を共有する。

このような学習を展開する上で、教員のICT機器を操作するスキルの向上が求められている。今後は優良なコンテンツを共有しようとする教員の意識改革が必要である。

3 若年層の人材育成

ここ数年、大量退職に伴う大量採用により、経験年数の浅い教職員が増加し、人材育成が急務となっている。所属校においてOJTを実施しているが、指導する側の教員も多忙であり、上司や同僚による人材育成には時間的に限りがある。外部人材による支援が必要である。

4 授業に専念できる環境の整備

現在取り組んでいる業務の中には、学校以外が担うべき業務や必ずしも教員が担わなくてもよい業務がある。また、家庭の教育力の低下により、保護者連携や福祉機関等との連携が増え、教員の多忙化に拍車をかけている。学校、家庭、地域による役割の明確化が必要である。

1 現状と課題

(1) 教育内容に係る今日的課題

GIGAスクールの進展を受け、伝統的な指導方法を基礎としつつ個別最適な学びを進める「令和の日本型学校教育」を、県内のリーディングエリアとして、これまでのレベルを維持しながらもさらに発展させられるかが本市の課題である。とりわけ、中学校教育の改革が求められている。

(2) 教員の人材育成に係る今日的課題

近年、家庭の教育力が低下している傾向にあり、また、悩みを持つ子供や問題のある家庭が多様に存在し、児童虐待や貧困、いじめ等の重大事案も増加、多様化している。さらには、特別支援教育の一層の充実や外国籍児童生徒の増加等、指導に当たる教員の負担は以前に増して大きくなっている。

このように教員をめぐる環境や待遇が改善されない中で、教員という職業が敬遠される傾向が強まっている。

一方で、教員の若年化が進み、若い教員が課題のある子供や家庭と向き合わなければならないとしても、サポートしてくれる中堅教員が少なくなっている。

2 対応案

現在、学校や教員への支援としては、指導課内にスクールサポートセンターを設置し、コーディネーター（退職教員）1名を配置し、学校からの相談に応じて、①教科指導、②学校経営、③学校環境、④部活動等の支援を行うためスクールサポーター（退職教員）を学校に派遣している。

スクールサポーター（退職教員）は、現在約130名の登録があり、年間300件以上の派遣実績がある。

このスクールサポート事業に加え、次の支援が求められている。

- (1) 若手教員への伴走型支援
- (2) 「令和の日本型学校教育」における学習指導の支援
- (3) GIGAスクールの進展に伴う新しい授業への取り組み支援

さらには、西条小学校で受け継がれてきた「独創教育」は、現代の「個別最適な学び」と相通じるものがあり、「独創教育」を令和の時代に応じた教育としてその意義を解釈し直し、全市的に展開することで、本市の教育力の向上が期待できる。

以上のことから、新たに東広島市において、経験豊富な退職教員で構成する「教育センター」的機能を持つ組織を設立し、スクールサポート業務を強化して教員や学校を支援する体制を整えることが望ましいと考えられる。